

令和4年度 第1回社会教育委員の会議 会議録

1 開催日時 令和4年8月2日(火) 午前10時00分～11時30分

2 開催場所 人材かがやきセンター 5階会議室

3 出席委員 18名

河田委員長, 成島副委員長, 伊澤委員, 平野委員, 今井委員, 永吉委員,  
小林純枝委員, 松本委員, 石塚委員, 大森委員, 小林剛委員, 増渕洋子委員,  
小池委員, 鈴木千明委員, 佐々木委員, 丸山委員, 増渕幸男委員, 郷間委員

4 会議の公開・非公開の別 公開

5 傍聴者 1名

6 内容

【協議事項】

・「(仮称)第3次宇都宮市地域教育推進計画後期計画」策定の方向性について

7 発言の要旨

事務局

【教育長より挨拶】

【委員改選に伴う新任委員の紹介】

【副委員長の選出についての説明】

河田委員長

新型コロナウイルス感染症の影響で2年間,さまざまな会議の中止やオンライン開催が続く中,参集方式で本会議が開催できましたので,皆様のお力をお借りしてなるべくスムーズに議事を進めてまいりたいと思います。

それでは副委員長の選出ですが,委員の皆様から御意見ございましたらお願いいたします。

もしご意見がないようであれば,事務局より提案したいと思いますがいかがでしょうか。

全員

異議なし。

事務局

【事務局より,成島委員を副委員長に提案】

全員

異議なし。

河田委員長

それでは異議なしということで、成島委員、よろしくお願いします。

河田委員長

それでは議事に入ります。よろしくお願いいたします。

第3次宇都宮市地域教育推進計画後期計画策定の方向性ということで、先ほど教育長から説明があったとおり、過去5年間の評価について委員の皆様と検討しながら、新しい後期計画の5年間の良い計画にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは事務局、説明をお願いします。

事務局

【資料について説明】

河田委員長

ありがとうございました。評価や課題についてご説明いただきましたが、わからない点やご意見ありましたらお願いします。

郷間委員

丁寧な説明で、計画の内容や評価等についてよくわかりました。

その中で、「コロナの影響」があまりにも大きく、過去から引き継がれている課題の分析について事務局はご苦労されたかと思えます。

1点目については、感染症の影響が長期にわたって続いた場合の社会教育や地域教育のあり方を、「根本的な教訓」として後期計画の中に反映する必要があるということですが。

別紙3を見ると、感染症対策として、ICTの活用や学習機会の提供など、実施方法の検討は盛り込まれてはいますが、本質的ではないように感じます。

例えば、今の中学3年生は中学校生活のうち2年半がコロナの影響を被っており、さまざまな学校行事が中止となり、結果として学校内のコミュニケーションがぎくしゃくしています。行政はこういった現状をもう少し真剣に受け止める必要があり、今後また感染症等の影響で社会活動が制限された場合に備えた計画を策定すべきだと考えます。また、資料3ページ(1)課題の総括においては、「感染症予防と地域教育推進の両立」という大きな課題を最初に挙げています。第4次計画策定の際には、感染症を気にしなくて済む世の中になっていることを願いますが、後期計画の中ではコロナ禍でどう地域教育を推進するのかを盛り込む必要があると考えます。一方で、ウクライナの情勢不安や自然災害をはじめとした非常事態、危機的状態が発生しているため、コロナと限定せず、何がいつ起きかわからない中で、社会活動が制限された場合の社会教育・生涯学習がどうあるべきかを計画の中で定めるべきと考えます。そういった工夫を計画の中に盛り込む余地があるのか、説明願いたいと思えます。

2点目については、読書活動推進計画についてですが、読書人口は減少する中で、コロナ禍は読書を増やす最高の機会であると思えます。接触による貸出は厳しいかもしれませんが、家にいる間に読書によって教養を高められる機会ととらえるべきであって、すべての事業の評価で安直に「コロナの影響で実績が下がった」と言っ

てよいものでしょうか。社会活動が制限される場合には、読書というものに対して、もう少し力を入れるべきではないのでしょうか。

3点目ですが、現在、地域・学校におけるコミュニティが崩れており、さらに学習コミュニティも崩れています。コロナによって、一堂に会して学習をするといったことができなくなり、学習する側のコミュニティが崩れ、また、講座等が実施できないことにより、学習を提供する側のコミュニティも崩れています。こういったコミュニティを立て直すためにどう対応していくかが直近の課題になっているかと思えます。

以上の3点について、お聞かせいただきたいと思えます。

事務局

ご意見ありがとうございます。

郷間委員にご指摘いただいたコロナの影響につきましては、事務局でも大変重く捉えているところです。

今後につきましては、コロナ対策として、やはりICTの活用はあり、感染拡大を機に、ZOOMなどを活用した講座が実施されるようになるなど、講座等への活用が一気に進んだという良い側面もあります。今後も新しい技術を活用した新しい講座の実施方法の拡大などに取り組んでいければと考えております。

一方で、ICTの活用は、人と人が触れ合わない状況を作り出すことになりませんが、人が集まりコミュニケーションが取れるような講座・イベントも重要であることから、従来の参集式の方法も継続していける工夫が必要と考えています。

また、今回のコロナだけでなく、自然災害や危機的状況が発生する場合など、今後、生涯学習が続けいけないという場面は大いに想定されます。お話しいただいたように、そういった中でも、学習を継続できるような環境づくり、基盤づくりについて、今後の計画の中に盛り込めるよう、内容等を検討していければと考えています。

ご意見の2点目の読書についてですが、コロナで外出等ができない中、読書機会を増やすということは大変重要であると考えております。そういった中で、通常の貸出業務に加え、こちらでもICTの活用できないかなどの検討ができたらと考えております。

最後に、コミュニティの崩壊についてですが、そういった地域の現状を把握し、今まで以上に地域で交流する機会や協力する機会など、つながりを再認識できる取組が必要と考えております。その中においては、先ほどから申し上げているICTを、行政が活用するだけでなく、市民の活動の中でも効果的に使っていけないかなど、検討を重ねてまいりたいと思えます。

コロナによるマイナスの面は多くありましたが、それらを踏まえて、今後、より強固な生涯学習の体制を構築するため、計画の内容を検討してまいりたいと思えますので、関係課、大学、企業と連携を図りながら、新たな取組や、従来の取組の拡充などを進めていければと考えております。

河田委員長

ありがとうございました。郷間委員、いかがでしょうか。

郷間委員

今のお話のとおり、今回の計画を策定し、ICTの活用により感染症に負けない社会教育が実現できるという、生涯学習に力を入れている宇都宮市の姿勢を示していくことは重要であり、そういった工夫が市民に伝わるように計画を検討してほしいと思います。

ただ、ICTやAIといった技術を使って情報サービスを提供していくことはとてもいいことだと思いますが、読書を例にとれば、ICTの技術が届くような方は、既に電子図書を活用している一方で、そうでない方は、好きな本を借りて読む、好きな本をたくさん買って自分だけの本棚を作り上げるといった、ICT活用とは別の「読書の価値」を持っているかと思います。そういった価値がある中では、ICTの活用によってすべて高い評価になるという見せ方は抵抗感を生むと思いますので、ICTは手法の一つであるという見せ方の工夫もしていただけたらと思います。

河田委員長

ありがとうございました。

読書は長年の課題であります、なかなか解決されていないと感じています。

また、コミュニティが破壊されている状況で、地域教育がコミュニティに対してどう関わっていくかは大きな問題であり、後期の計画に盛り込む必要があると思います。

地域教育は、家庭教育、学校教育からなっているわけですが、家庭教育の観点からなにかご意見ありますか。小池委員か鈴木委員いかがでしょうか。

鈴木委員

感想になりますが、先が予測できない、また社会活動が制限されるコロナの状況の中で、生涯学習の役割は大きくなっていると感じています。様々なイベントが中止や延期されると、家庭で過ごす時間が長くなり、こういった状況下であっても子どもにのびのび育てほしいと考える保護者はたくさんいます。家庭での教育方法などが分からず、不安になることもあると思うので、そういったことを一緒に考えていけるような講座を実施していただけたらと思います。

また、お話を聞いた中で、図書館の可能性をとっても感じたので、出口の見えないコロナ禍ではありますが、市民の学習の助けになる図書館を目指してほしいと思います。

小池委員

人とのコミュニケーションの定義が、私の世代と今の子育て世代では変わっているように感じます。以前の親学講座では、親同士で悩みを共有し、話し合いながら自分で考えることで、課題解決を図っていましたが、今はコロナの影響でそういった受講ができず、研修方式のため、自分で考える機会がなくなっているのかと思います。

若い世代の親御さんからは、アバターを通したいわゆるメタバースの世界であれば、実際に接するリスクをなくしてコミュニケーションがとれるという意見をよく聞きます。また、メタバースの世界では、従来、体を通して経験していたことが、アバターを通して経験できるという意見もありますが、自分の手を使わない経験は、

経験とは言えないのではないかと思います。

また、参考2事業番号2に「ICTに対応した学習の推進」とあり、事業の内容として「情報技術を安全に活用する」とありますが、今後、メタバースの世界で様々な経験をするようになる考えると、後期計画の中には、メタバースの危険性や課題を子育て世代に伝えていくが必要になると思います。

河田委員長

ありがとうございました。

それでは、学校教育に関して、先生方いかがでしょうか。

平野委員

ICTの活用は、遠隔での講座・授業の実施等でプラスになる存在かと思う一方で、従来型の学習とのバランスが非常に大切かと思います。生涯学習の視点では、「どう学ぶか」も大切ですが、「どう学びを活かしていくか」も重要になってきますので、そういった中で、ICTの活用にどう取り組むのか考えながらお話を聞かせていただきました。

学校現場におきましては、GIGAスクール構想の一環としてタブレットを使用しておりますが、子どもたちもタブレットの使用に関しては非常に慣れてきている一方、情報モラルの育成が課題となっております。コミュニケーションが不足することにより自分本位で情報機器を使用してしまうため、生涯学習においてもモラルの育成は必要な事項かと思います。

また、コミュニティの話題についてですが、学校では少しずつ地域の方とのふれあいが始まっており、学校での活動に地域の方も積極的に参加いただいております。子どもたちには学校関係者以外の第三者に言葉をかけてもらう喜びがあり、また、地域の方においては、子どもたちとの活動を通して自分自身の存在意義の確立がされていたように感じます。メタバースの話でもあったとおり、やはりICTの活用だけでなく、実際のふれあいとのバランスが重要であると思います。

学校現場で何ができるかといえば、子どもたち自身が学ぶ楽しさや学び続ける喜び・意欲を育てていってあげることです。人生100年時代に地域に参加していく力を育むためには、やはり小学校時代から学ぶ喜びを大切にしていきたいと考えております。

河田委員長

ありがとうございました。伊澤委員いかがでしょうか。

伊澤委員

資料の説明をきいて、宇都宮市は丁寧に社会教育に取り組んでいると感じました。

ICTの活用に関しては、恥ずかしながら、県立高校は昨年末にやっと電子黒板が全クラスに導入されたような状況でして、今の高校1年生は中学3年間でタブレットを使用してきた世代でもあります。実際のところ、宇都宮南高校は約900名の8クラス編成であり、大人数の生徒に対してICTの活用のみでは限界があり、対面とオンラインを併用した「ハイブリット形式」を活用することが有効であると考えております。

コロナを理由として、学校行事や地域の教育活動が縮小されていくのは非常に残

念なことであり、例を挙げると、本校生徒は高校野球大会でも大いに活躍し、その他のインターハイや国体への出場選手も排出される状況であります。それは地域に支えられた結果のひとつだと思います。

市の後期計画に基づいて、高校教育現場でも協力できることに取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

河田委員長

ありがとうございました。

では、就学前の教育として、今井委員をお願いします。

今井委員

幼稚園連合会の話をするのですが、コロナ当初、会議や研修会などはZOOMだけで行っていました。最近では対面とオンラインを併用して行っています。そのような中で感じたのは、画面の向こう側の人と話すのはとても難しいということです。画面越しでは、会話の反応が分かりづらいため、対面の方がいるとどうしても対面の方にばかり話しかけてしまいます。今後は対面を実施するためいかに工夫できるかが重要になってくるかと思っております。

また、園内での幼児の様子については、マスクはほとんどつけておらず、接触も多いため、先生方はかなり気を使っている状態ですが、家庭内で感染する場合はあるものの、園内でのスラスタなどは発生しておらず、先生方の対策のおかげかと思っております。園内では活動を制限せず、普通どおりできることが一番子どもたちのためになるかと思っており、乳児は、先生がマスクを着けていると口の形が見えず、言葉の獲得が遅れているように感じます。口が見えるようなクリアなマスクをするなどの対応はとっておりますが、やはりコロナ前のようにはいきません。また、先生方にはプライベートでも感染対策を徹底するよう指示しておりますが、完全には防ぎきれず、職員が足りないという園も出ている状況です。

地域のことでお話ししたいのですが、今年は夏祭りを企画していましたが、中止となりました。地域の方々は、子どもたちにお祭りはできなかったけれど楽しい体験を届けたいという思いがあり、花火を上げることになりました。花火という形式をとったため、普段関わりのある子どもたちだけではなく、地域の方も見ることもできたと思っております。今までとは違う形でのお祭りの実施となりましたが、より広い地域の方のために何かできたというのは、地域のつながりにプラスになったのではないかと思います。地域のつながりや家庭のつながりについては、効果や実績が検証されづらい部分もありますが、コロナ禍で活動が制限される中でも、今までよりプラスになる活動もあるものだと感じました。

河田委員長

ありがとうございました。

では社会教育の関係で、子ども会のお話を伺いたいと思っておりますが、石塚委員いかがでしょうか。

石塚委員

2点ほどお話ししたいと思います。まず1点目についてですが、子ども会活動というのは体験学習が多く、学年の異なる子どもたちが集まって接触するため、コロナ

禍においてはやり方を工夫しながら実施してきました。しかしながら、制限のある中では、子どもが体験できずに終わってしまう活動もあります。小学校高学年で体験すべきものができなかったという子どもたちについては、非常に残念だったかと思えます。

2点目については、指導者・役員の継承の問題です。コロナ以前に指導者・役員が変わった団体は、2～3年活動が制限され、活動を再開しようという時に、どのような活動をしたらいいか、どのような計画を立てたらいいかわからない、ということが生じています。我々連合会としては、そういった部分も支援していかなければならないと考えており、地域教育推進計画のなかにも、地域や家庭における指導者・役員の育成の項目が充実すると良いと思えます。

河田委員長

ありがとうございました。それでは、増渕委員をお願いします。

増渕洋子委員

私は上戸祭小の放課後子ども教室に携わっており、12年目になります。

子どもたちを見ている中で、コロナ前との変化について、子どもたちが甘えるようになったと感じます。学校の授業や放課後子ども教室でもマスクをするようになり、子どもたちもかわいそうな部分はありますが、屋内ではマスクをするよう指導して活動しています。地域と学校との連携を取りながらできる活動を選び、なんとか活動をしているところです。

宇都宮市では53校で放課後子ども教室が実施されており、実施されない学校の理由としては、コーディネーターという人材の不足があげられると思えますが、実施している中では、子どもたちからも続けてほしいという声を聴きますので、今後も放課後子ども教室を継続していけたらと考えております。

河田委員長

ありがとうございました。

貴重な意見がたくさん出てきたかと思えます。教育というものは家庭教育・学校教育・社会教育からなっており、各分野の壁をなくして取り組めるのが一番いいかなと思えます。各分野において問題がでてきますが、それぞれが協力して課題解決を図っていけたらと思う一方、まだまだ現状は領域ごとの壁がありますので、子どもたちにとって一番いい環境を提供できたらと思えます。

私は大学教育に携わり、すでにある程度教育を受けてきた子どもたちを見ているわけですが、同じく大学教育に関わっている佐々木委員いかがですか。

佐々木委員

私は国際学部にて在籍しておりますが、コロナの状況は非常に厳しいものでありました。大学生たちは対面を欲しているなど感じ、私自身、対面の授業も実施してきました。世の中では、コロナを理由として、楽をしておもうという思惑を感じる場合もありますが、それでは真の教育は実現できないと思えます。大学生・大学院生と一緒に研究をしていく仲間であるため、対面の重要性をひしひしと感じているところです。

その一方で、コロナの良い側面は、ZOOMなどのICT技術が浸透し、手段が

増えたことです。大学の授業でも遠方からも参加できるなど、利点もあったと言えます。大学の4年間をどう教育していくかを考えた時には、やはり対面は重要であり、安易にICTに頼らないという姿勢を大切にしつつ、その一方で、良い面は受け入れ、活用していければいいと思います。

大学生は、遠方から就学する場合等も多く、高校生までと比べると、地域との関わりという面では限られてきてしまいますが、地域貢献や社会貢献あるいは家庭への関与も大切かと思うので、もっと地域へ出ていく活動ができたと思います。日本語教育をお手伝いする学習パートナーというボランティアに参加もしていますが、私の研究室の学生だけでなく、もっと多くの学生にもそういった活動に参加してもらいたいと思っています。

河田委員長

貴重な意見ありがとうございました。

バイトで塾講師をしたり、家庭学習を手伝う学生は多く、地域でそういった学生の能力を様々な地域貢献に生かしていく方向性も大切かなと思います。学生も教えることを通して学ぶことが大いにあります。

ICTの活用については、いい面も悪い面もあり、両面を区別していくことが重要です。アバターの話でもあったとおり、ICTを通して知識だけでなく仮想の経験等を獲得するという部分もありますが、そのいい面、悪い面を考えていくことも大切だと思います。

この会議の内容については、今後の地域教育推進計画の検討に加味していただき、よりよい計画の策定をお願いしたいです。

では最後に、その他としまして、今年度の今後の社会教育委員の会議の予定について、事務局からお知らせです。

事務局

【予定について説明】

川田委員長

今後も会議が予定されておりますので、引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。

本日の議事は以上となりますので、進行を事務局へお返しします。

事務局

本日は長時間に渡ってのご審議、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、令和4年度第1回社会教育委員の会議を閉会いたします。